

## 創価学会会長あての「辺野古新基地建設の是非についての公開質問状」 に対する創価学会の無回答について

「平和をつくり出す宗教者ネット」は、9月5日付宗教法人創価学会原田稔会長あてに「辺野古新基地建設の是非についての公開質問状」を送りました。書中、今月12日までの回答をお願いしましたが、本日18日まで回答がなかったため、創価学会に電話をかけ、広報担当者より、「無回答と判断してよい」とのことを口頭で確認しました。

「辺野古新基地建設の是非についての公開質問状」の趣旨は、書面でも説明したように、辺野古新基地建設を中止させるため、圧倒的な信徒数の創価学会にぜひ理解と協力をいただきたい一心でした。

信仰、教義には違いはあっても、世界平和と地球環境の破壊を望まないことでは思いを共通していることは、核兵器廃絶についての世界的評価や、創価学会ホームページから明らかです。池田大作名誉会長も、自著において、「『20世紀にどこよりも苦しんだ 沖縄』を『21世紀にどこよりも幸せにする』ために全身全霊を傾けなければ日本に平和はない」（インターネットサイト AERA dot 2016. 2. 22）と記しています。

ところが上記のような創価学会の姿勢にも関わらず、創価学会を母体とする公明党では、従来公明党本部と一線を画し、米軍普天間飛行場の県内移設に反対してきた沖縄県党本部までが、8月20日、基地推進と目される知事選候補者と政策協定を結び、それを翻しました。

辺野古への土砂投入は間近にせまっています。沖縄の創価学会の信徒の方々も阻止のために頑張っておられます。創価学会本部から、どんな小さな一言でも発していただければ、沖縄で辺野古新基地建設に反対する学会信徒の方々は励まされるはずでした。一度破壊された自然環境は、人間の手で取り戻すことは不可能に近いわざです。今回の「無回答」の判断が、どのような理由からなのか、理解に苦しみ、同じ宗教者として甚だしい遺憾を感じざるをえません。

2018年9月19日

### 「平和をつくり出す宗教者ネット」

石川勇吉（真宗大谷派僧侶）  
石黒友大（日蓮宗僧侶）  
大倉一美（カトリック司祭）  
小武正教（浄土真宗本願寺派住職）  
小野文瑠（日蓮宗僧侶）  
勝谷太治（カトリック司教）  
金 性済（日本キリスト教協議会総幹事・ 牧師）  
對月慈照（真宗大谷派僧侶）  
武田隆雄（日本山妙法寺僧侶）  
谷 大二（カトリック名誉司教）  
坂内義子（元キリスト者政治連盟委員長）  
比企敦子（日本キリスト教協議会教育部）  
昼間範子（カトリック信徒）